

大村の概況

市公式
マスコットキャラクター



おむらんちゃん
平成24年2月誕生

市の木



イチイガシ
平成元年指定

市の花



オオムラザクラ
昭和47年指定

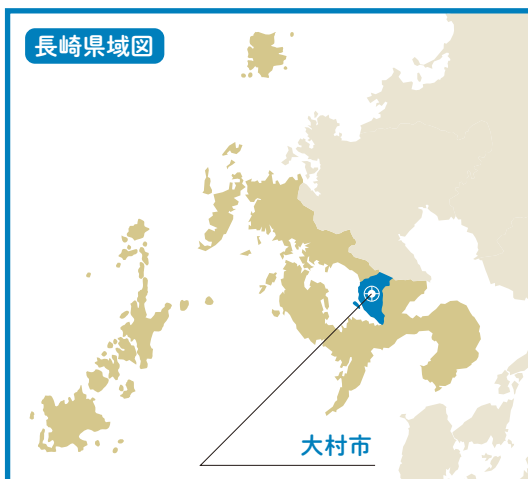
市章



昭和23年制定

県央の中核都市として発展

市制施行	昭和17年2月11日
人口・世帯数 (令和5年12月末日現在) <small>※住民基本台帳による</small>	98,658人 46,002世帯
面積	126.73km ²
標高(市内の最高地点)	1,076m(経ヶ岳)
降水量	1,811.1mm(平年値)
平均気温	17.3°C(平年値)



長崎県の中央部に位置する本市は、東に多良山系、西に大村湾を臨み、大村公園の国指定天然記念物オオムラザクラをはじめ、サクラヤハナシヨウブ、ヒガンバナなど、さまざまな花が季節を通して咲き誇る、自然豊かなまちです。

大村の歴史は古く、戦国時代、日本初のキリシタン大名・大村純忠は、天正遣欧少年使節をローマに派遣し、幕末・維新の激動期には、大村藩が新政府側として活躍し、多くの人材を輩出しました。

本市は、世界初の海上空港である長崎空港、長崎自動車道インターチェンジ、さらに令和4年9月に開業した西九州新幹線を有し、交通アクセスの利便性を活かしたまちづくりが進められています。

市制を施行した昭和17年当時の人口は3万9572人でしたが、現在の人口は9万8千人を超えており、県央の中核的な都市として発展を続けています。



市役所本庁舎(昭和39年建設)